



Title	アイスランド語の音韻とカナ表記の問題点 (2)
Author(s)	清水, 誠; Shimizu, Makoto
Citation	北海道大学文学研究科紀要, 133, 57(左)-77(左)
Issue Date	2011-03-15
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/44968
Type	departmental bulletin paper
File Information	133_2.pdf



アイスランド語の音韻とカナ表記の問題点 (2)

清水 誠

Íslensk hljóðfræði með tilliti til japanskrar hljóðritunar (2)
(*The Annual Report on Cultural Science* No. 133. Graduate School of
Letters, Hokkaido University. Sapporo/Japan. 2011. ISSN 1346-0277)
SHIMIZU, Makoto
(mshimizu@lit.let.hokudai.ac.jp)

7. 母音字のカナ表記

7.1. 個々の母音字のカナ表記

個々の母音のカナ表記を検討してみよう。長音符 [:] の有無による母音の長短は「音節均衡」の原則による。二重母音の長短はカナ表記では区別できない。

1. a [a:] 「アー」/[a] 「ア」

Kvaran [k^hva:ran] 「クヴァーラン」(人名, 姓)

2. á [au:]/[au] 「アウ」

Grágás [g̊rau:g̊aus] 「グラウガウス」(中世の法律書名)

3. au [œy:]/[œy] 「エイ」

ei/ey [ei:]/[ei] 「エイ」(正確には [ɛi:]/[ɛi]) の口のかまえて唇を丸める。前半の [œ] を「エ」と表記することについては、14.ö の説明参照⁸⁶。

Haukur [hœy:g̊yr] 「ヘイクル」(男名)

Austurland [œysdʏrland] 「エストゥルランド」(アイスランド東部地方)

4. e [ɛ:] 「エー」/[ɛ] 「エ」

Helena [hɛ:lɛna] [ヘーレナ] (女名)

5. ei/ey [ei:]/[ei] 「エイ」

ei と ey の文字は同一音を表し、使い分けは歴史的理由による。

Heimaey [hei:maei:] 「ヘイマエイ」(地名)

6. é [jɛ:] 「イエー」/[jɛ] 「イエ」

Pétur [pʰjɛ:ɔʏr] 「ピエートゥル」(男名)

Slétta [sljɛhɔ] 「スリエヘタ」(地名)

7. i, y [i:] 「イー」/[i] 「イ」

i と y の文字は同一音を表し、使い分けは歴史的理由による。ng/nk が後続する場合を除いて(7.2.参照), 半狭の「ゆるみ母音」である。

Kiðagil [cʰi:ðajr:l] 「キーザギール」(地名)

Dýrafjöll [ɔi:rafjœɔl] 「ディーラフィエトル」(地名)

Gyrðir [jʏrðir] 「ギルジル」(男名)

8. í, ý [i:] 「イー」/[i] 「イ」

í と ý の文字は同一音を表し、使い分けは歴史的理由による。狭い「張り母音」。

Kílafjöll [cʰi:lafjœɔl] 「キーラフィエトル」(地名)

Dýrafell [ɔi:rafɛɔl] 「ディーラフェトル」(地名)

Gtsli [jʏsli] 「ギスリ」(男名)

Grýttagil [gʀihɔajr:l] 「グリヒタギール」(地名)

i/y と í/ý の発音はカナ表記では区別できない。

Guðni [gʏvðni] 「グヴズニ」(男名) ↔ Guðný [gʏvðni] 「グヴズニ」(女名)

⁸⁶ Magnús P. (1981: 189f.) は ö を e「エ」、jö を jo「ヨ」、au を oi「オイ」と表記することを提案しているが、賛同できない。

9. o [ɔ:] 「オー」/[ɔ] 「オ」

Bogason [bɔ:ʏasɔn] 「ボーガソン」(男名, 父称)

10. ó [ou:]/[ou] 「オウ」

Þórólfur [θou:rɔulvʏr] 「ソウロウルヴル」(男名)

11. u [y:] 「ユー」/[y] 「ウ」

短母音 u [y] は口蓋化(硬口蓋化 palatalization)の度合いが弱く、「ユ」よりも「ウ」に近く聞こえる。「ユ」を多用するのは日本語としても奇妙な響きになる。そこで、あえて短母音 [y] は「ウ」、長母音 [y:] は「ユー」とする⁸⁷。

Una [y:na] 「ユーナ」(女名) Rut [ry:d] 「リユート」(女名)

Unnur [yn:yʏr] 「ウンヌル」(女名)

Finnur [fɪn:yʏr] 「フィンヌル」(男名)

12. ú [u:] 「ウー」/[u] 「ウ」

狭い奥舌(軟口蓋)母音。「ウ」/「ウー」とカナ表記する。

Úa [u:a] 「ウーア」(女名) Úlla [uɖla] 「ウトラ」(女名)

13. æ [ai:]/[ai] 「アイ」

Sæmundur [sai:myndʏr] 「サイムンドゥル」(男名)

Hæll [haiɖl] 「ハイトル」(地名)

14. ö [œ:]/[œ] 「エ」

e [ɛ(:)] 「エ(ー)」の口のかまえで唇を丸める。カナ表記では円唇性を除去した「エ(ー)」とする。これは Köln [kœln] 「ケルン」(地名), Goethe [ˈgø:tə] 「ゲーテ」(人名, oe=ö) など、ドイツ語の ö (o-Umlaut) のカナ表記による。ö を「オ(ー)」とする表記も散見されるが、それなら Köln は「コルン」、Goethe は「ゴーテ」となってしまう、明らかに不適切である。

Gröf [gʁœ:v] 「グレーヴ」(地名)

⁸⁷ オランダ語の無アクセント位置に現れるゆるみ母音の u [y] も同様。例. Makkum [ˈmakym] 「マクム」(地名), 「マキユム」とはしない。清水 (2004b: 8) 参照。

Hörður [hœrðvr] 「ヘルズル」(男名)

15. jö [jœ:] 「イエー」/[jœ] 「イエ」

従来は Björnson「ビヨルンソン」(ノルウェー人作家)など、ノルウェー語やスウェーデン語での慣習に従って「イヨ(ー)」、「ヨ(ー)」とすることが多かった⁸⁸。しかし、本稿では ö を「エ(ー)」とする理由から、jö も「イエ(ー)」と表記する。

Jökull [jœ:ǰyðl̥] 「イェクトル」(男名)

Björg [bjœrǰ] 「ビエルグ」(女名)

Eyjafjörður [ei:jafjœrðvr] 「エイヤフィエルズル」(地名)

7.2. 「母音+{ng/nk}」と「母音+{gi/(gj)}」

「母音+ng [ŋǰ]/[ŋj̥]」、「母音+nk [ŋǰ̥]/[ŋj̥]」では、母音 a/e/ö/i/y/u の音価は次のように変わる。

a [au]/e [ei]/ö [œy]/u [u]/i, y [i]

Langjökull [launǰjœǰyðl̥] 「ラウングイェクトル」(地名)

Sprengisandur [sþreinj̥sandr̥vr] 「スプレインギサンドゥル」(地名)

Löngubrekkur [lœynǰyþr̥ehǰvr] 「レイングブレヘクル」(地名)

Ingi [inj̥i] 「インギ」(男名) Yngvi [inj̥vi] 「イングヴィ」(男名)

Tunga [tʰunǰa] 「トゥンガ」(地名)

ngl [ŋǰl̥]/[ŋǰl̥] では [ǰ] が脱落して [ŋl] になる傾向が強い(4.1.参照)。

Kringlan [kʰriŋlan] 「クリングラン」(商業施設名)

⁸⁸ Björnson のような特殊文字を除いた英語式のつづりに影響された「つづり字発音」(spelling pronunciation) に由来するとも考えられる。ノルウェー語やスウェーデン語の表記についても、「イヨー」/「イヨ」, 「ヨ」/「ヨー」は同様に不適切である。なお, rn の連続では両言語ともに n は発音せず, r はそり舌音 (retroflex) になる。

「母音+{gi [jɪ]/gj [j]}」では、母音（長母音）の音価は次のように変わる⁸⁹。

a [ai:] / e [ei:] / o [ɔi:] / ö [œy:] / u [yi:] / i, y [i:]

Bragi [b̥rai:jɪ] 「ブライイ」(男名)

Bogi [b̥ɔi:jɪ] 「ボイイ」(男名)

Egilsstaðir [ei:jɪlsða:ðɪr] 「エイイルスタージル」(地名)

この発音は「母音+gi」以外の場合にも拡張されることがある。

Egla [eiɣla] 「エイグラ」(女名) ← Egill [ei:jɪdɪ] 「エイイトル」(男名)⁹⁰

8. 子音字のカナ表記

8.1. 閉鎖音としての p/t/k, b/d/g — 有気音と無気音

閉鎖音系列の子音で弁別的なのは、無声と有声の対立ではなく、直後の「気音」(fráblástur, aspiration, [h] で示す)の有無による「有気音」(帯気音, fráblásin, aspirated)と「無気音」(ófráblásin, unaspirated)の対立である⁹¹。p/t/gの文字は語頭では有気音を表す⁹²。b/d/gの文字はつねに無気音を表す。日本語には有気・無気の対立がないので、便宜的に有気閉鎖音を無声音のパ行・タ行・カ行子音、無気閉鎖音を有声音のパ行・ダ行・ガ行子音で表

⁸⁹ この [j] にはわたり音 (glide) の性格がある。Höskuldur Þ./Kristján Á. (1992 : 99) 参照。

⁹⁰ ほかに megi(r) [mei:jɪ(r)] 「…してよい(接続法)」→ mega [mei:ʏa] (不定詞), spegill [s̥pei:jɪdɪ] 「鏡」→ speglar [s̥peiɣlar] (複数主格) などの例がある。Jón F. (1984² : 10), Kress (1982 : 22), Stefán E. (1949² : 10), Sigfús B. (1920-24 : 153) 参照。

⁹¹ この点は北ゲルマン語ではデンマーク語とフェーロー語に共通している。厳密には、8.3. で述べる前気音にたいして「後気音」(postaspiration)の有無による対立である。

⁹² 4.2. で述べたように、「語頭(音)、語末(音)、語中(音)、母音間」とは単一語、それに複合語と一部の派生語の構成要素での区別を指す。

記する。

問題は p/t/k の文字が無気閉鎖音を表す場合である。これは語頭で他の子音に後続するか、語中と語末で気音が弱まる場合に起こる。上記の方式では有声音のバ行・ダ行・ガ行子音で表記することになるが、そもそも有気音と無気音はカナ表記では区別できない。そこで、あえてつづり字発音によって無声音のバ行・タ行・カ行子音で表記する。発音記号では、p [p^h], t [t^h], k [k^h]/[c^h] は「硬音」(fortis) の有気音, b/p [b̥], d/t [d̥], g/k [g̊]/[k̊] は「軟音」(lenis) の無気音を示す。

1. p [p^h] 「パ行子音」, t [t^h] 「タ行子音」, k [k^h] 「カ行子音」(有気閉鎖音：p/t は条件なしの語頭, k は 8.2. 以外の語頭)
 Pálmi [p^haulmi] 「パウルミ」(男名)
 Teitur [t^hei:ðyr] 「テイトゥル」(男名)
 Kolbrún [k^hɔlbrun] 「コルブルン」(女名)
2. p [b̥] 「バ行子音」, t [d̥] 「ダ行子音」, k [g̊] 「カ行子音」(無気閉鎖音：語頭で他の子音に後続, 語中, 語末)
 Núpur [nu:b̥yr] 「ヌープル」(地名)
 Steinar [s̥ðei:nar] 「ステイナル」(男名)
 Skálholt [s̥g̊au:l(h)ɔl̥d̥] 「スカウルホルト」(地名)
 Vík [vi:g̊] 「ヴィーク」(地名)
3. b [b̥] 「バ行子音」, d [d̥] 「ダ行子音」, g [g̊] 「ガ行子音」(無気閉鎖音：b/d は条件なし, g は 8.2. 以外の語頭, 母音+g+{l/n}, 子音+g)
 Borg [b̥ɔr̥g̊] 「ホルグ」(地名)
 Davið [ða:við] 「ダーヴィズ」(男名)
 Garðabær [g̊arðab̥ai:r] 「ガルザバイル」(地名)
 Siglufjörður [si̥gl̥v̥f̥j̥œrðyr] 「シグルフィエルズル」(地名)
 Ragnar [rḁɣnar] 「ラグナル」(男名)⁹³

⁹³ Ragnar [rḁɣnar] → [raʔnar] の傾向については注 12 参照。

ただし、-gnd/-gnt は [ŋd] 「ング+ダ行子音」/[ŋd̥] 「ング+タ行子音」であり、[gnd̥] とは発音しない。-gns [gns] も [ŋs] 「ング+サ行子音」が多い⁹⁴。

4. guð- [gʷvð] 「グヴズ」 (guð [gʷvy:ð] 「グヴューズ」 (=神) との複合語)
Guðrún [gʷvðrun] 「グヴズルン」 (女名)
Guðmundur [gʷvðmʏndʏr] 「グヴズムンドゥル」 (男名)

8.2. 閉鎖音としての k/kj, g/gj — 硬口蓋音と軟口蓋音

k/g の文字は前舌 (硬口蓋) 母音 i/y/i/ý/e と二重母音 ei/ey/æ の直前では、硬口蓋音 [c^h]/[j] を表す。kj/gj も同様。それ以外は 8.1. で述べた軟口蓋音 [k^h]/[g] を表す。したがって、ke [c^hɛ(:)] 「キエ(ー)」, ge [jɛ(:)] 「ギエ(ー)」, kei/key [c^hei(:)] 「キエイ」, gei/gey [jɛi(:)] 「ギエイ」であり、「ケ(ー)」, 「ゲ(ー)」, 「ケイ」, 「ゲイ」ではない。*ké/*gé, *kúi/*gúi, *gúi/*gúi とはつづらない。

1. k/kj [c^h] 「キ・キエの子音部分」 (有気閉鎖音：語頭)
Ketill [c^hɛ:ɸiɸl] 「キエーティル」 (男名)
Kjartan [c^haɾɸan] 「キヤルタン」 (男名)
Kækjuskörð [c^hai:jʏsɸœrð] 「キヤイキユスケルズ」 (地名)
2. k/kj [j] 「キ・キエの子音部分」 (無気閉鎖音：語頭で子音に後続，語中，語末)
Skeið [sʃɛi:ð] 「スキエイズ」 (地名) Laki [la:jɪ] 「ラーキ」 (地名)
Þorkell [θɔɾjɛɸl] 「ソルキェトル」 (男名)
Hallgrímskirkja [haɸl̥gɾi:msk^hirj^a] 「ハトルグリムスキルキャ」 (教会名)
3. g/gj [j] 「ギ, ギエ」 (無気閉鎖音：語頭，子音+{g/gj})

⁹⁴ 例. rigna [riŋna] 「雨が降る」 -rgndi [riŋɸi] (過去形) -right [riŋɸ] (過去分詞)；一部の語では gagn [gʌŋŋ] 「利益」 -gagns [gʌŋŋs, gʌŋs, gʌxs] (単数属格)；Indriði G./Höskuldur P. (2000²: 206), Kress (1982: 40), Stefán E. (1949²: 19) 参照。

- Geir [ʒei:r] 「ギェイル」 (男名)
 Geysir [ʒei:sɪr] 「ギェイシル」 (地名)
 Helgi [hɛlʒi] 「ヘルギ」 (男名)
 Gæsavötn [ʒai:savœhðŋ] 「ギャイサヴェヘトン」 (地名)
 Gjálfjöll [ʒau:fjœðj] 「ギャウフィエトル」 (地名)

8.3. 閉鎖音としての p(p)/t(t)/k(k), bb/dd/gg — 前気有気音と長子音
 pp/tt/kk の文字は「有気音+閉鎖音」を表す。これは直前に「前気音」(aðblástur, preaspiration)を伴った有気音であり、「前気有気音」(aðblásin, preaspirated)という。「母音+{p/t/k}+{l/n}」の連続でも p/t/k の直前に前気音が入る(2.pl/tl/kl, 注96参照)。ただし、音声学的には声門摩擦音の[h]と同等なので⁹⁵、「[h]+無気閉鎖音」の発音記号で示す。この場合の p/t/k は無気音だが、8.1.で述べたように、カナ表記では「ハ行子音+{パ行・タ行・カ行子音}」とする。促音「ッ」による表記は不適切であり、これは長子音の表記に用いる。たとえば、女名に用いる父称 -dóttir [ðouhðɪr]は「ドゥティル」ではなく、「ドウフティル」である。

- Otti [ɔhðɪ] 「オホティ」 (男名) ↔ Oddi [ɔðɪ] 「オッディ」 (地名)
 Einarsdóttir [ei:narððouhðɪr] 「エイナルスドウフティル」 (女名, 父称)

ハ行子音のどれを選択するかについては、カナ表記での先行母音に同化させて「アハ」、「イヒ」、「ウフ」、「エヘ」、「オホ」とする(8.4.2.参照)。

1. pp [hð] 「ハ行子音+パ行子音」, tt [hð] 「ハ行子音+タ行子音」, kk [hŋ]/[hʒ] 「ハ行子音+カ行子音」

⁹⁵ Stefán E. (1949²: 19, 21, 16)は heppinn [hɛ^hp:ɪn] 「幸運な」, hittinn [hɪ^ht:ɪn] 「的を得た」, þekkja [θɛ^hkj:a] 「知っている」, brekka [brɛ^hk:a] 「斜面」のように、母音間などの pp/tt/kk を「長音の前気無声閉鎖音」(long preaspirated voiceless stop) とみなして [h^hp:]/[h^ht:]/[h^hkj:]/[h^hk:] と記している。Берков/Аурни Б. (1962) も同様。

Bakki [b̥ah̥ʝi] 「バハキ」(地名) Rikka [rih̥g̥a] 「リヒカ」(女名)
 Stykkishólmur [st̥iħ̥ʝiʃoulmyr] 「スティヒキスホウルムル」(地名)
 Guttormur [g̥yħ̥d̥ormyr] 「グフトルムル」(男名)
 Grettir [g̥r̥eħ̥d̥ir] 「グレヘティル」(男名)
 Hreppólar [r̥eħ̥b̥hoular] 「フレヘブホウラル」(地名)
 Ottó [oħ̥dou] 「オホトウ」(男名)

2. pl [h̥p̥l]/[h̥p̥l̥] 「ハ行子音+プ+ラ行子音」, tl [h̥dl]/[h̥dl̥] 「ハ行子音
 ト+ラ行子音」, kl [h̥gl]/[h̥gl̥] 「ハ行子音+ク+ラ行子音」
 pn [h̥p̥n]/[h̥p̥n̥] 「ハ行子音+プ+ナ行子音」, tn [h̥dn]/[h̥dn̥] 「ハ行子
 音+ト+ナ行子音」, kn [h̥gn]/[h̥gn̥] 「ハ行子音+ク+ナ行子音」
 すべて母音(短母音)の直後で前気音が現れる。

Katla [kʰah̥d̥la] 「カハトラ」(地名)
 Hekla [h̥eħ̥g̥la] 「ヘヘクラ」(地名)
 Vopnafjörður [v̥oħ̥naf̥jœrðyr] 「ヴォホプナフィエルズル」(地名)
 Mývatn [mi:vah̥d̥n̥] 「ミーヴァハトン」(地名)
 Framsókn [framsouħ̥g̥n̥] 「フラムソウフクン」(雑誌名)

なお, kaupmaður [kʰœyħ̥maðyr] 「商人」, Kaupmannahöfn [kʰœyħ̥b̥-
 manahœp̥n̥] 「コペンハーゲン」のように語彙的に定着した複合語などで
 は, m [m] の直前の p などが前気音を帯びて [h̥p̥] となることがある⁹⁶。

bb/dd/gg の文字は, 2 モーラに相当する長子音としての無気閉鎖音を
 表す。カナ表記では促音字「ッ」を用いて「ッ+{バ行・ダ行・ガ行子音}」
 とする。

3. bb [b̥:] 「ッ+バ行子音」, dd [d̥:] 「ッ+ダ行子音」, gg [g̥:]/[g̥:] 「ッ+

⁹⁶ Magnús P. (1992³: 48), Берков/Аурни Б. (1962: 353, 931), Stefán E. (1949²: 6, 382), Sigfús B. (1920-24: 422) 参照。Svein B. (1967: XVII) はこれを「例外」(Ausnahme) としているが, Kristján Á. (2005: 1563) は rytmi [riħ̥tmi] ([t] = [d̥]) 「リズム」の例を引き, 一般に「短母音 + {p/t/k} + {l/n/m}」を単一語を含めてすべて前気音の条件としている。

ガ行子音」

Robbi [rɔb̥:i] 「ロbb」 (男名)

Edda [ɛd̥:a] 「エッダ」 (女名；作品名)

Siggi [sɪʒ:i] 「シgg」 (男名)

Tryggvi [tʰrɪʒ:vi] 「トリggヴィ」 (男名)

8.4. 摩擦音としての p/k, g

1. p [f] 「フ」 (p+{s/t/k})

閉鎖音の連続を嫌って、異化によって前半部分が摩擦音に変わる。2. も同様。

Neskaupstaður [nɛskʰœyfsd̥a:ðvr̥] 「ネスケイフスターズル」 (地名)

2. k [x] 「ハ行子音」 (k+{s/t})⁹⁷

ハ行子音のどれを用いるかは、8.3.と同様に、カナ表記での先行母音に同化させて「アハ」、「ウフ」、「エへ」、「オホ」とする。ただし、「{i/í/y/ý}+{g/k}+{s/t}」の g/k [x] は軟口蓋無声摩擦音なので「イフ…」とし、「イヒ…」とはしない。「ヒ」は hj-/h(é) [ç] の硬口蓋無声摩擦音に用いる。3.g [x], 8.5.11.x [xs] 参照。

Þorlákshöfn [θɔrlauxshœb̥n̥] 「ソルラウフスヘブン」 (地名)

Stokkseyri [stɔkshœiri] 「ストホセイリ」 (地名)

Benedikt [bɛ:nɛd̥ɪk̥d̥] 「ベーネディクト」 (男名)

Eiríkur [ei:riʒvr̥] 「エイリクル」 (男名) → Eiríksson [ei:rixsɔn] 「エイリフソン」 (男名, 父称)

ただし、-lks- では k は摩擦音になりにくい⁹⁸。

Gottskálk [gɔh̥d̥s̥g̥au̯l̥k̥] 「ゴホトスカウルク」 (男名)

→ Gottskálksson [gɔh̥d̥s̥g̥au̯l̥k̥sɔn] 「ゴホトスカウルクソン」 (男名, 父称)

⁹⁷ ks [xs] は 3.gs [xs] と同様に、近年では [qs] と発音することがある。注 107 参照。

⁹⁸ Indriði G./Höskuldur Þ. (2000²: 210) 参照。

3. g [ɣ] 「ガ行子音」(「母音+gi」を除く母音間, 語末, 母音+g+{r/ð})⁹⁹,
g [x] 「ハ行子音」(g+{s/t/f})

軟口蓋有声摩擦音 [ɣ] は日本語にはないので, 便宜的にガ行子音でカナ表記する。g [x] のカナ表記は 2.k [x] と同様。

Sigurlaug [sɪ:ɣʏrlœyɣ] 「シーグルレイグ」(女名)

Sigrún [sɪɣrun] 「シグルン」(女名) ↔ Vigfús [vixfus] 「ヴィフフス」(男名)

Bergur [ɸerɣʏr] 「ベルグル」(男名) → Bergsson[ɸerxson] 「ベルフソン」(男名, 父称)

例外的に, Ágúst [au:ɰusɰ] 「アウグスト」(男名)では母音間でも閉鎖音 g [ɰ] である。Ágústa 「アウグスタ」(女名), Ágústína 「アウグスティーナ」(女名), Ágústínus 「アウグスティーヌス」(男名)も同様。

4. g [j] 「ヤ行子音」(「母音+{gi/gj}」, 7.2.参照)

Gýgjarhóll [ji:jarhouɰ] 「ギーヤルホウトル」(地名)

8.5. 摩擦音 s/ð/p/v/f/j/h/hj/hv/x と閉鎖音としての f

古くはゲルマン語には摩擦音に有声・無声の対立がなかった。アイスランド語ではこの歴史的事情を反映して, 語中では摩擦音の有声・無声の区別は, 一部の外来語を除いて相補分布的に決まっている¹⁰⁰。歯間摩擦音 ð [ð]/þ [θ] の区別も位置によって決まっており, 歯(茎)無声摩擦音 s [s]には有声音がない。有声・無声が同じ位置で現れるのは, 語頭の唇歯摩擦音 v [v]/f [f]に限られる。これは v [v] が両唇軟口蓋接近音 [w] に由来するためである (vagn [vaɰn] 「車」↔英 *waggon*)。v [v] が語末以外に母音間と k(k)/g(g)/s(t)/l/r の後で現れるのもこのためである (svara [sva:ra] 「答える」↔英 *swear* 「誓う」)。そのほかは, f の文字が無声音 [f] か有声音 [v] かを相補分布的に表

⁹⁹ g [ɣ] は á/ó/ú の直後で脱落することが多い。例. nógur [nou:(ɣ)ʏr] 「十分な」; 注 17 参照。

¹⁰⁰ 外来語の例は sófi [sou:fi] 「ソファ」, kaþólskur [k'þa:θoulsɰʏr] 「カトリックの」など。

す。語頭には軟口蓋摩擦音 g [ɣ], $g/k/(x)$ [x] は現れないが, 硬口蓋摩擦音 j [j], $hj/h(é)$ [ç] は現れる。声門摩擦音 [h] はほぼ語頭に限られる。

1. s [s] 「サ行子音」, ss [s:] 「ッ+サ行子音」
 sj [sj]/ si [si(:)]/ $sí$ [si(:)] はあえて日本語の発音に従って, 「スイ(ー)」ではなく, 「シ(ー)」と表記する¹⁰¹。
 $Símon$ [si:møn] 「シーモン」(男名)
 $Nesja$ [nɛ:sja] 「ネーシヤ」(地名)
2. δ [ð] 「ザ行子音」(語頭以外), δ [θ] 「サ行子音」($\delta + \{p/t/k\}$)
「語頭以外」とは「{母音}/{f/g/r} + δ [ð]」を指し, 3. p と相補分布をなす。 δ [θ] の例は少ない。カナ表記は英語の th に従って, ザ行(およびサ行)子音で表す。 δj [ðj]/ δi [ði(:)]/ $\delta í$ [ði(:)] は 1., 2. と同様の理由で「ズイ(ー)」ではなく, 「ジ(ー)」と表記する¹⁰²。
 $Óðinn$ [ou:ðm] 「オウジン」(男名; 神名)
3. p [θ] 「サ行子音」(語頭)
2. δ と相補分布をなす。カナ表記は英語の th に従って, サ行子音で表す。 pj [θj]/ $pí$ [θi(:)]/ $pí$ [θi(:)] は 1., 2. と同様の理由で「スイ(ー)」ではなく, 「シ(ー)」と表記する¹⁰³。
 $Þór$ [θour] 「ソウル」(男名; 神名)
 $Þistilfjörður$ [θistulfjœrðyr] 「システィルフィエルズル」(地名)
4. v [v] 「ヴァ行子音」(語頭, 語末以外で $k(k)/g(g)/s/t/l/r$ などの後, 母音間)
 $Vigdís$ [viɣdis] 「ヴィグデイス」(女名)

¹⁰¹ ただし, カナ発音では [スイ(ー)] と表記して, $Símon$ [スイーモン], $Nesja$ [ネーシヤ] とする。

¹⁰² ただし, カナ発音では [ズイ(ー)] と表記して, $Óðinn$ [オウズイン] とする。 δ [θ] の例には $iðkun$ [iθgyn] 「実践」などがある。

¹⁰³ ただし, カナ発音では [スイ(ー)] と表記して, $Þistilfjörður$ [システィルフィエルズル] とする。

Böðvar [bœðvar] 「ベズヴァル」(男名)

Yngvar [iŋgvar] 「イングヴァル」(男名)

Svava [sva:va] 「スヴァーヴァ」(女名)

5. f [f] 「ファ行子音」(語頭, 母音+f+{s/t}), ff [f:] 「ツ+ファ行子音」,
f [v] 「ヴァ行子音」(母音間, 母音+f+{ð/g/j/r}), {l/r}+f+母音,
語末)

Ólafsfjörður [ou:lafsfjœrðyr] 「オウラフスフィエルズル」(地名)

Soffía [sɔf:i:ja] 「ソフフィヤ」(女名)

↪ Ólafur [ou:lavyr] 「オウラヴル」(男名)

Höfði [hœvði] 「ヘヴジ」(地名)

Gefjun [jɛvjyn] 「ゲェヴィユン」(神名)

Hafrafell [havrafɛd̥l̥] 「ハヴラフェトル」(地名)

Úlfar [ulvar] 「ウルヴァル」(男名)

Torfi [tʰɔrvi] 「トルヴィ」(男名)

Ólöf [ou:lœv] 「オウレヴ」(女名)

次の人名は母音間でも無声音の f [f] である。

Stefán [sðɛ:faun] 「ステーフアウン」(男名)

Stefanía [sðɛ:fani:ja] 「ステーフアニヤ」¹⁰⁴

6. fn [fn̥]/[fn̥] 「プ+ナ行子音」, fl [fl̥]/[fl̥] 「プ+ラ行子音」

fn/fl の f [fn̥] は無気閉鎖音になる。b [b̥] 「バ行子音」と違ってつづり
字発音に従う必要はないので、音声学的により近い「プ」で表記する。

Hafnarfjörður [haɸnarfjœrðyr] 「ハプナルフィエルズル」(地名)

Höfn [hœɸn̥] 「ヘプン」(地名)

Keflavík [cʰɛɸlavi:ŋ] 「キェプラヴィーク」(地名)

Gafl [ŋaɸl̥] 「ガブル」(地名)

¹⁰⁴ Stefán [sðɛ:f:au] 「ステッフアウン」, Stefanía [sðɛ:f:ani:ja] 「ステッフアニヤ」という
発音もある。Sigfús B. (1920-24 : 793), Stefán E. (1949² : 455) 参照。古くは Steffán,
Stephan とつづっていた。Guðrún K./Sigurður J. (1991 : 509) 参照。

7. j [j] 「ヤ行子音」

Jón [jou:n] 「ヨウン」(男名)

Njarðvík [njarðvíg] 「ニャルズヴィク」(地名)

Fnjóskadalur [fnjousgáða:lyr] 「フニョウスカダールル」(地名)

tj- [tʰj]/[ɕj] は「ティ」とカナ表記する¹⁰⁵。

Tjörninn [tʰjœrɕnɪn] 「ティエルトニン」(地名)

Kristján [kʰrɪsɕjaun] 「クリスティヤウン」(男名)

8. h [h] 「ハ行子音」, hi [hi(:)]/hí [hi(:)] 「ヒ(ー)」, he [hɛ(:)] 「へ(ー)」

Hólar [hou:lar] 「ハウラル」(地名)

Hilmar [hɪlmar] 「ヒルマル」(男名)

Helga [helgá] 「ヘルガ」(女名)

9. h [ç] 「ヒの子音部分」(h+{j/é})

「h+j」, 「h+é」では硬口蓋無声摩擦音 [ç] が現れる。日本語の「ヒ」は [hi] ではなく, [çi] に近いので, むしろ 8. hi [hi(:)]/hí [hi(:)] の発音に注意を要する。

Hjálmar [çaulmar] 「ヒャウルマル」(男名)

Héðinn [çɛ:ðm] 「ヒエージン」(男名)

10. hv- [kʰv] 「ク+ヴァ行子音」

hv- の h- は有気閉鎖音 [kʰ] である。[xv], [xw] という異音があるが, 現在では一般的ではない¹⁰⁶。

Hveragerði [kʰvɛ:raɕerði] 「クヴェーラギエルジ」(地名)

Hvammur [kʰvam:yr] 「クヴァンムル」(地名)

11. x [xs]¹⁰⁷ 「ハ行子音+サ行子音」

¹⁰⁵ 近年では, tj- は [tʰsj]/[ɕsj] と発音することがある(同様に dj- [ɕj]→[ɕsj])。この点を重視すれば, tj- を「チャ行子音」でカナ表記することも考えられる。例. tjald [tʰjalɕ] 「ティヤルド」→ [tʰsjalɕ] 「チャルド」(「テント」の意味); Svavar S. (2005: 1833) 参照。

¹⁰⁶ Indriði G./Höskuldur Þ. (2000²: 106, 169-174), Höskuldur Þ./Kristján Á. (1992: 98-106), 森田 (1981: 19) 参照。

ハ行子音のどれを用いるかは、8.4.2.k [x], 8.4.3.g [x] と同様。

Laxness [laxsnəs] 「ラハスネス」(人名, 姓)

Faxaflói [faxsaflou:i] 「ファハサフロウイ」(地名)

Öxnadalur [œxsnada:lvr] 「エヘスナダールル」(地名)

8.6. 鼻音, 流音

鼻音 m(m)/n(n) と流音 l(l)/r(r) は下記の条件のもとで無声音または有声音として現れる。無声音になるのは、下記の条件以外に、一般に単語の語末で無声音に後続する場合が含まれる¹⁰⁸。

1. m(m) [m] (「m+{p/t/k}」以外)/[m̥] (m+{p/t/k}) 「マ行子音」,

m(m) [m:] 「ン+マ行子音」(語末音では「ム」)

Hlemmur [l̥ɛm:vr] 「フレンムル」(地名)

Hvammstangi [kʰvamsðaun̥ʝi] 「クヴァムスタウンギ」(地名)

2. n(n) [n] (右記以外)/[n̥] (n+t, 語末で「{f/g/k/r/s/t}+n」) 「ナ行子音」, n(n) [n:] 「ン+ナ行子音」(語末音では「ン」)

「{a/e/i/y/o/u/ö}+nn」と定冠詞-(i)nn... ではこの発音になる。

Gunnar [g̥yn:ar] 「グンナル」(男名)

Steinunn [s̥ðei:nyn] 「ステイヌン」(女名)

Sveinbjörg [svein̥bjœrg̥] 「スヴェインビエルグ」(女名)

¹⁰⁷ 近年では、x/ks/gs は [g̥s] と発音することがある。例. lax [laxs] → [lḁg̥s] 「鮭」; Svavar S. (2005 : 1833), Indriði G./Höskuldur P. (2000² : 79 ff.), Höskuldur P./Kristján Á. (1992 : 100-102) 参照。

¹⁰⁸ Sven (=Sveinn) B. (1967 : XVII) は語末の r を無声音としており(注9参照), Stefán E. (1949² : 20) は語尾 -ar/-ir/-ur の r を無声音としている。さらに, Берков/Аурни Б. (1962 : 950, 957, 958, 960) は, l/m/n (-inn を含む) は母音または有声音の直後で単語の語末の位置, r は一般に単語の語末の位置で, それぞれ半有声音 (полузвонкое) であると述べている。本稿では半有声音は認めず, Indriði G./Höskuldur P. (2000²), Magnús P. (1992³) の記述に従うが, 一般的に鼻音・流音は語末の位置で有声性を失う傾向がある。

Þórisvatn [θour:ɪsvahd̥n̥] 「ソウリスヴァハトン」(地名)

Sogn [sɔŋn̥] 「ソグン」(地名)

3. mn [d̥n̥] (語末以外)/[d̥n̥] (語末) 「ト+ナ行子音」

「{á/é/í/ý/ó/ú/æ/au/ei/ey}+mn」の連続ではこの発音になる。mn [d̥n̥]/[d̥n̥] の無気閉鎖音 [d̥] は d [d̥] と違ってつづり字発音に従う必要はないので、「ド」ではなく、音声学的により近い「ト」と表記する。

Þorsteinn [θɔrsd̥eɪd̥n̥] 「ソルステイトン」(男名)

Sveinn [sveid̥n̥] 「スヴェイトン」(男名)

4. ng [n̥ŋ] 「ン+ガ行子音」, ng [n̥ŋ] 「ン+ギ・ギエの子音部分」, nk [n̥ŋk̥]
「ン+カ行子音」, nk [n̥ŋk̥] 「ン+キ・キエの子音部分」(7.2.参照)

5. l(l) [l] (右記以外)/[l̥] (l(l)+{p/t/k}, 語末の {f/g/r/s(/t/k)}+l)
「ラ行子音」

Lára [lau:ra] 「ラウラ」(女名)

Hjalti [çald̥t̥i] 「ヒャルティ」(男名)

Gafl [gabl̥] 「ガブル」(地名)

Gíslholt [gis̥lhɔld̥] 「ギスルホルト」(地名)

6. ll [d̥l̥] (母音+ll+{母音/n/r})/[d̥l̥] (語末) 「ト+ラ行子音」, ll [l̥] (ll+
語尾{-d/-s}) 「ラ行子音」, ll [l̥:] (人名の愛称, 一部の外来語¹⁰⁹) 「ッ+
ラ行子音」

ll [d̥l̥]/[d̥l̥] の無気閉鎖音 [d̥] は d [d̥] と違ってつづり字発音に従う必要はないので、「ド」ではなく、音声学的により近い「ト」と表記する。

Gullfoss [gʏvd̥l̥fɔs] 「グトルフォス」(地名)

Þingvellir [θiŋg̊ved̥l̥ɪr] 「シングヴェトリル」(地名)

Halla [had̥la] 「ハトラ」(女名)

Snæfellsnes [snai:fɛlsnɛ:s] 「スナイフェルスネース」(地名, -fells- の
s は属格語尾) ← Snæfell [snai:fed̥l̥] 「スナイフェトル」(地名)

¹⁰⁹ 一部の外来語とは Pólland [pʰoul:and̥] 「ポーランド」などの例を指す。

Palli [pʰal:i] 「パッリ」(男名, 愛称) ← Páll [pʰauḷ] 「パウトル」(男名)

Ella [ɛ:l:a] 「エッラ」(女名, 愛称) ← Elín [ɛ:lin] 「エーリン」(女名)
次の人名では例外的に ll [l] 「ル」の発音である。

Halldór [halḷour] 「ハルドウル」(男名)

Halldóra [halḷoura] 「ハルドウラ」(女名)

→ Hallgrímur [haḷḷgrimyr] 「ハトルグリームル」(男名)

7. r(r) [r] (右記以外)/[r̥] (r + {p/t/k/s}) 「ラ行子音」, rr [r:] 「ツ+ラ行子音」(語末音では「ル」)

Rúnar [ru:nar] 「ルーナル」(男名)

Snorri [snɔ:r:i] 「スノッリ」(男名)

Heiðmörk [heiðmœr̥g̊] 「ヘイズメルク」(地名)

Þórshöfn [θour̥shœḷn̥] 「ソウルスヘブン」(地名)

8. r1 [rḷ] (語末以外)/[rḷ] (語末) 「ルト+ラ行子音」, rn [rḷn] (語末以外)/[rḷn] (語末) 「ルト+ナ行子音」

rの部分脱落することがあり, 有アクセント音節では保たれるが, 無アクセント音節や使用頻度の高い少数の語では脱落することがある。

ただし, 近年では脱落しない傾向が強く, カナ表記では原則として r が脱落しない表記をする¹¹⁰。r1/rn の無気閉鎖音 [ḷ] は d [ḷ] と違ってつづり字発音に従う必要はないので, 「ド」ではなく, 音声学的により近い「ト」と表記する。

Örn [œrḷn̥] 「エルトン」(男名)

Arnarson [arḷnarson] 「アルトナルソン」(男名, 父称)

9. hl- [l̥] 「フ+ラ行子音」, hr- [r̥] 「フ+ラ行子音」, hn- [n̥] 「フ+ナ行子音」

l [l]/r [r]/n [n] の無声音であり, h の文字は発音しない。語頭では有声の l [l]/r [r]/n [n] と無声の hl [l̥]/hr [r̥]/hn [n̥] の対立がある。カ

¹¹⁰ Jón F. (1984²: 28f.), Kress (1982: 35f., 41), 4.1.の説明参照。

ナ表記ではあえて h を「フ」と表し, h を欠く有声の語形から区別する。

Hlíð [ʃi:ð] 「フリーズ」(地名)

Hnúkar [ɲu:ɰar] 「フヌーカル」(地名)

Hraun [rœy:n] 「フレイン」(地名)

Hlín [ʃi:n] 「フリーン」(女名) ↔ Lín [li:n] 「リーン」(女名)

*本研究は科研費(21520425)の交付を受けたものである。

参考文献

*アイスランド人の名前には基本的に「姓」がなく、通例に従って「名」の順に並べる。

「アイスランド語の音韻と正書法の問題点(1)」で挙げた文献を含めて記載する。

Ari Páll Kristinsson. 1988³. *The Pronunciation of Modern Icelandic*. Reykjavík. Málvísindastofnun Háskóla Íslands.

Bandle, Oskar et al. (eds.). 2005. *The Nordic Languages*. Vol. 2. HSK 22.2. Berlin/New York. De Gruyter.

Берков, Валерий П./Аурни Бёдварссон. 1962. *Исландско-русский словарь*. Москва. Государственное издательство иностранных и национальных словарей.

Björn Guðfinnsson. 1964. *Um íslenzkan framburð: Mállýzkur II*. (*Studia Islandica* 23). Reykjavík. Heimskpeideild Háskóla Íslands og Bókatúgáfa Menningarsjóðs.

Guðrún Kvaran. 2005. “Written Language and Forms of Speech in Icelandic in the 20th Century”. Bandle et al. (eds.). 2005. 1742-1749.

Guðrún Kvaran/Sigurður Jónsson frá Arnarvatni. 1991. *Nöfn Íslendinga*. Reykjavík. Heimskringla/Háskólaforlag Máls og menningar.

Höskuldur Þráinsson/Kristján Árnason. 1992. “Phonological Variation in 20th Century Icelandic”. *Íslenskt mál og almenn málfræði* 14. 89-128.

Höskuldur Þráinsson/Hjalmar P. Petersen/Jógvan í Lon Jacobsen/Zakaris Svabo Hansen. 2004. *Faroese. An Overview and Reference Grammar*. Tórshavn. Føroya Fróðaskaparfelag.

Indriði Gíslason/Höskuldur Þráinsson. 2000² (1993). *Handbók um íslenskan framburð*. Reykjavík. Rannsóknarstofnun Kennaraháskóla Íslands.

Jón Friðjónsson. 1984². *Phonetics of Modern Icelandic*. Reykjavík.

Jón Ófeigsson. 1920-24 (1980). “Træk af moderne islandsk Lydlære”. Sigfús B. (1920-24 (1980): XIV-XXVII).

- Kiparsky, Paul. 1984. "On the Lexical Phonology of Icelandic". Elert, Claes-Christian et al. (eds.). *Nordic Prosody III. (Studies in the Humanities 59)*. Umeå/Stockholm. Acta Universitatis Umensis/Almqvist & Wiksell. 135-164.
- Kreß (=Kress), Bruno. 1937. *Die Laute des modernen Isländischen*. Berlin. Schulze.
- Kress, Bruno. 1938. *Phonetische Platte des Isländischen. (Lautbibliothek 197)*. Institut für Lautforschung an der Universität Berlin. Leipzig. Harrassowitz.
- Kress, Bruno. 1982. *Isländische Grammatik*. Leipzig/München. VEB Verlag Enzyklopädie/Hueber.
- Kristján Árnason. 1980. *Quantity in Historical Phonology. Icelandic and Related Cases*. Cambridge et al. Cambridge University Press.
- Kristján Árnason. 1998. "Vowel Shortness in Icelandic". Kehrein, Wolfgang/Richard Wiese (eds.). *Phonology and Morphology of the Germanic Languages. (Linguistische Arbeiten 86)*. Tübingen. Niemeyer. 3-25.
- Kristján Árnason. 2005. "The Standard Languages and Their Systems in the 20th Century I: Icelandic". Bandle et al. (eds.). 2005. 1560-1573.
- Magnús Pétursson. 1978a. *Isländisch*. Hamburg. Buske.
- Magnús Pétursson. 1981. "Íslenzkur framburður í japanskri hljóðritun". Guðrún Kvaran et al. (útg.). *Afmæliskveðja til Halldórs Halldórssonar 13. júlí 1981*. Reykjavík. Íslenska Málritafélagið. 182-197.
- Magnús Pétursson. 1988. "Plädoyer für ein isländisches Aussprachewörterbuch". Milosch, Tomas/Hartmut Mittelstätt (Hrsg.). 1988. *Beiträge zur nordischen Philologie. (Linguistische Studien. Reihe A. Arbeitsberichte 187)*. 8-15.
- Magnús Pétursson. 1992³ (1981). *Lehrbuch der isländischen Sprache*. Hamburg. Buske.
- Morita, Sadao. 1976. "Two Views of Old Norse Pronunciation: IP or RP?". 人文科学研究 13 (早稲田大学). 43-47. (IP=Icelandic pronunciation, RP=reconstructed pronunciation)
- Pétur Helgason. 1993. *On Coarticulation and Connected Speech Processes in Icelandic*. Reykjavík. Málvísindastofnun Háskóla Íslands.
- Sigfús Blöndal. 1920-24 (1963) (1980-81). *Íslensk-dönsk orðabók. A-L/M-Ö. (Viðbætur)*. Reykjavík. Verslun Pórarins B. Þorlákssonar.
- Sigurður Jónsson/Guðvarður Már Gunnlaugsson/Höskuldur Þráinsson. (1992²). *Mállýskudæmi*. Reykjavík. Málvísindastofnun Háskóla Íslands.
- Stefán Einarsson. 1949² (1945). *Icelandic. Grammar, Texts, Glossary*. Baltimore/London. The John Hopkins U. P.
- Svavar Sigmundsson. 2005. "Trends in the Linguistic Development Since 1945. IV: Icelandic". Bandle et al. (eds.). 2005. 1832-1839.

- Sveinn Bergsveinsson. 1941. *Grundfragen der isländischen Satzphonetik*. Kopenhagen/Berlin. Munksgaard/Metten.
- Svein (=Sveinn) Bergsveinsson. 1967. *Isländisch-deutsches Wörterbuch*. Leipzig. VEB Verlag Enzyklopädie.
- Sveinbjörn Sveinbjörnsson. 1933. *Icelandic Phonetics*. (*Acta Jutlandica V. Supplementum*). Universitetsforlaget i Aarhus. København. Reitzel.
- Örn Sigurðsson et al. 2000. *Kortabók*. Reykjavík. Mál og menning.
- 浅井辰郎/森田貞雄 1980. 『アイスランド地名小辞典』 帝国書院
- 亀井 孝/河野六郎/千野栄一 (編) 1996. 『言語学大辞典第6巻術語編』 三省堂
- 清水 誠 1997. 「ゲルマン語類型論から見た西フリジア語の『割れ』(Brechung)と『短母音化』について」『ドイツ文学99号』(日本独文学会)17-27.
- 清水 誠 1999. 「アイスランド語」千野栄一/石井米雄(編)『世界のことば100語辞典ヨーロッパ編』(担当部分)三省堂
- 清水 誠 2004a. 「アイスランド語」千野栄一/石井米雄(編)『世界のことば・出会いの表現辞典』(担当部分)三省堂
- 清水 誠 2004b. 『現代オランダ語入門』 大学書林
- 清水 誠 2008. 「アイスランド語」石井米雄(編)『世界のことば・辞書の辞典 ヨーロッパ編』三省堂. 360-376.
- 清水 誠 2009a. 「アイスランド語研究と辞書編集の歴史」『日本アイスランド学会会報第28号』1-34.
- 清水 誠 2009b/c/d. 「北欧アイスランド文学の歴史 (1)/(2)/(3)」『北海道大学文学研究科紀要 128/129/130』139-194/1-62/69-124.
- 清水 誠 2009e. 『北欧アイスランド文学の歩み——白夜と氷河の国の六世紀』現代図書
- 清水 誠 2010. 「アイスランド語の音韻とカナ表記の問題点(1)」『北海道大学文学研究科紀要132』1-44.
- 清水 誠 2011. 「アイスランド語の音韻とカナ表記」清水 誠(編)『アイスランドの言語, 神話, 歴史——日本アイスランド学会30周年記念論文集』麻生出版(近刊)
- 森田貞雄 1981. 『アイスランド語文法』 大学書林

* 誤植：前稿「アイスランド語の音韻とカナ表記の問題点(1)」

7 頁 上から13行目 kv → hv

10 頁 上から5行目 [ɣl]/[ɣ] → [ɣl]

12 頁 上から7行目 [au:ʝysd] → [au:ʝusd]

13 頁 上から13行目 [hœyʝyr] → [hœy:ʝyr]

15 頁 上から1行目 [k^hœyb] → [k^hœy:b]

アイスランド語の音韻とカナ表記の問題点 (2)

- 注 29 Magnús P. (1992²: 30, 45)→Magnús P. (1992²: 33, 48)
- 注 30 Magnús P. (1992²: 45)→Magnús P. (1992²: 48)
- 28 頁 注 57 上から 1, 2 行目 [k^hœyþ]→[k^hœy:þ]
- 30 頁 上から 6～7 行目 sel [se:l] 「家畜小屋」→selur [se:lʏr] 「アザラシ」
- 31 頁 上から 7 行目 [framsœhǫŋ]→[framsouhǫŋ]
上から 8 行目 [sœhǫŋ]→[souhǫŋ]
- 32 頁 下から 3 行目 [θou:r(h)adlʏr]→[θou:r(h)adlʏr]
- 33 頁 上から 2 行目 [mɪ:ðaldʏr]→[mɪ:ðaldʏr]
下から 2 行目 [raunǫau]→[raunǫau]
- 注 69 [...li:ǫʏr]→[...liǫʏr]
- 35 頁 注 72 [nœðan-auhd]→[nœrðan-auhd]
- 37 頁 上から 10 行目および
- 40 頁 上から 9 行目 [þœ:lʏŋǫarvi:ǫ]→[þœ:lunǫarvi:ǫ]
下から 9 行目 ミルダールル→ミルダールル
- 41 頁 下から 7 行目 [almanaǫau:]→[almanaǫau:]
- 注 84 Magnús P. (1992²: 42f.)→Magnús P. (1992²: 45f.)
(ib. 49)→(ib. 52)
(ib. 50)→(ib. 53)